

市民・事業者・行政が協働して環境保全都市を実現するひらかた環境ネットワーク会議会報誌

NO. 47
秋号平成 27 年
(2015)

環境ひらかた



バス!のって

スタンプラリー



この秋で20回目を迎えます!



公共機関を使って

枚方の魅力を探しに出かけませんか!

公共交通部会では、枚方市や交通事業者とともに、移動手段としてバスや電車などの環境にやさしい公共交通を選択していただけるよう情報提供するために、交通タウンマップの作製や「バス!乗ってスタンプラリー」を実施しています。

マイカーよりも環境負荷が少ない公共機関を使う「バス!のってスタンプラリー」は、マップを使ってバスや電車に乗りながら、スタンプポイントをめぐるイベントで、「いかにしてたくさんバスに乗るか」ではなく「まずは、公共交通をいかに楽しく利用し、また面白いものに出会って、枚方でのがらしが楽しいと気づくか」を目的とし、毎年春と秋に実施しています。これまでに、延べ 3795 人の方が参加されました。

ひらかた夏の省エネコンテスト 応募受付が始まりました!!



夏の3カ月間(7月、8月、9月)の
電気・ガス・水道の「使用量の
お知らせ」を貼って出すだけ。



10月20日しめ切りです。特典満載! 応募してくださいね。

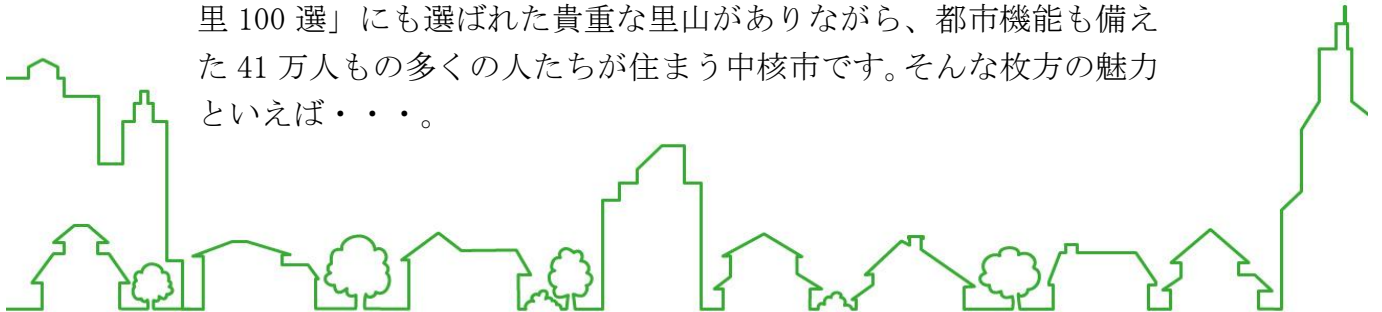
*****目次*****

バス!のってスタンプラリー	P 1
枚方の魅力といえば・・・	P 2・3
各部会報告	P 4・5
「お知らせコーナー」	P 6
環境トピックス VOL. 13	P 7
シリーズ「地域の環境人登場」	P 8



枚方の魅力

枚方は、西に豊かな水の流れる淀川や、東部地域には「にほんの里 100 選」にも選ばれた貴重な里山がありながら、都市機能も備えた 41 万人もの多くの人たちが住まう中核市です。そんな枚方の魅力といえば・・・。



里山とは

里山とは人里近くにあり、昔から生活のために利用してきた山(森林)のことを言います。里山はもともと原生林でしたが、人々が住むようになってから、人々は生活に必要な木に植え替えたりして、利用しやすいように変えてきました。現在里山と呼ばれる場所にはコナラやクヌギなどの落葉広葉樹、シイ、カシ類などの常緑広葉樹などが植えられ、キノコや山菜なども栽培されていました。里山近くの農村では里山からとれる薪や柴を燃料にし、燃やした後の灰は無機肥料に利用するといったように、里山は人々とともにありました。

しかし、里地里山の多くは人口の減少や高齢化の進行、産業構造の変化により、里山林や野草地などの利用を通じた自然資源の循環が少なくなることで、大きな環境変化を受け、里地里山における生物多様性は、質と量の両面から劣化が懸念されています。

そんな里山の荒廃が、今日的な自然災害を引き起こす要因の一つになっているのではと、気付いた若者たちが、里山保全について考えてくれました。

インターン生！里山について学ぶ

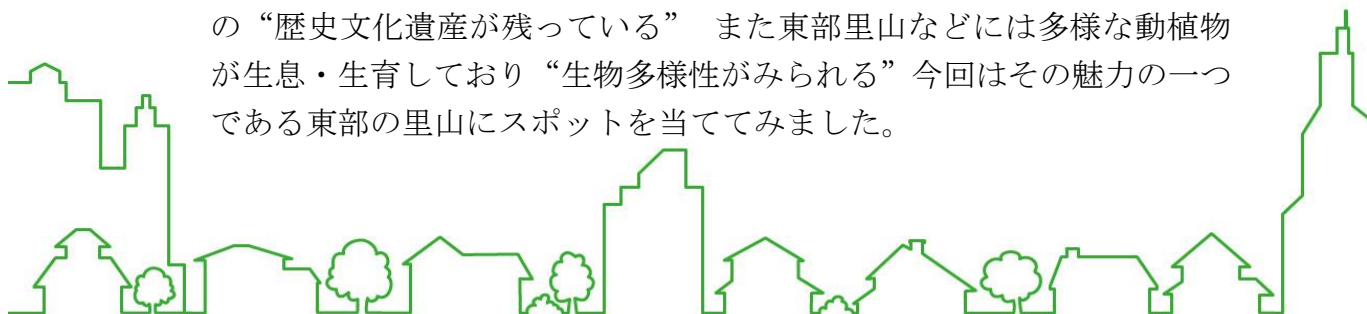


里山について話を聞くインターン生

今年も4名のインターン生を受け入れました。研修の中で、NPO 法人森林ボランティア「竹取物語の会」の市山さんに、里山の現状や里山保全の大切さなどを聞き、自分達にできることはなんだろうと考え、「日本の里山が危ない！」というパンフを作成しました。研修を通してそれぞれに多くのことを学んでくれたことと思います。

といえば…

“京都・大阪・奈良のほぼ中間に位置し利便性に優れている” 特別史跡「百済寺跡」や幕末に勝海舟が設計したとされる「楠葉台場跡」などの“歴史文化遺産が残っている” また東部里山などには多様な動植物が生息・生育しており“生物多様性がみられる” 今回はその魅力の一つである東部の里山にスポットを当ててみました。

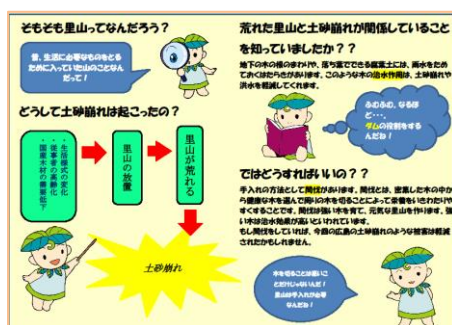


里山について学んだインターン生たちは…次のような感想を聞かせてくれました。



- ・今まで里山について考えた事もなかったけれど、里山の大切さや、保全活動の難しさを知った。
- ・里山を保全するためには伐採しなければいけないものもあることを知った。
- ・里山の荒廃は土砂災害を引き起こす原因にもなっていることがわかった。

- ・いろいろ4人で話し合い、やっと出来上がったチラシが嬉しかった。
- ・人に思いを伝えることの難しさを知った



松本 理紗



千崎 爽加



岡嶋 美幸



住友 隆治

<お・ま・け> 天の川も魅力がいっぱい 環境情報コーナーに“天の川のお魚たち”がお目見え



「枚方いきもの調査会」の協力で環境情報コーナーの水槽に“天の川のお魚”がお目見えしました。情報コーナーには、その他にも昆虫の標本や、市内の動植物に関する展示物などたくさんあります。自然あふれる枚方には、野鳥、植物、昆虫、魚などいろいろな生き物が住んでいます。中には貴重種もいます。「枚方いきもの調査会」は、それらの調査や保護に取り組んでおられる団体です。



部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

まちづくり部会

まちは花いっぱい、笑顔いっぱい!!

まちづくり部会の活動に“まち美化活動推進事業”があります。部会では市のアダプトプログラムに加入し、地域の公園や道路、五六市の会場である街道筋の清掃活動を定期的に行うことで、まち美化の推進と清掃人口の増加に努めています。

また、部会では、商店街等、地域の各所に花のプランターを設置することで良好な景観づくりをめざす“花いっぱい運動”を行なっています。地域のイベントのときにも数多くのプランターを設置し、会場の雰囲気を和ませています。今年度は、「花と緑を通じて地域交流の拠点づくりを進めるための事業」に、地域の方々と協力し挑戦します。

いつも集まっている公園に花壇や休憩場所を設置し、地域コミュニティの交流ができる公園をめざし活動中です。

地域の方々とのネットワークづくりの一步になればと思います。



自然エネルギー部会

親子で学ぶ「自然エネルギー講座」ソーラーカーを作って走らせました

夏休みも終わりに近い8月22日、サプリ村野で自然エネルギー学校2015第1回親子で自然エネルギー「ソーラーカーを作って走らせよう」を開催、約40名の親子が参加しました。

毎年夏休みを利用して、子供たちに自然エネルギーについて学んでもらおうと実施しています。「ミニカー作り」という子供たちが楽しんで取り組めることを通し、自身が作ったミニカーが太陽光の力で走るといったことを体験することで“自然エネルギー”についての理解の一步となることを期待しての実施です。当日は生憎の曇り。



太陽光で走らせることはできませんでした。太陽光に見立てたライトを当てると動きだし、熱・光のパワーを実感してもらうことができました。



昨年募集した“電車やバス物語”の作品が本になりました



公共交通部会では、バス・電車などの公共交通はマイカーよりも環境負荷が小さく、マイカーに乗れない高齢者の方々の移動を確保し、生活を支える役割を担っています。また教育の観点からは、公共交通を通じて他者への配慮を学べる場でもあり、社会性の涵養を担う役割も果たしています。

部会では、平成 17 年度より、枚方市や交通事業者とともに、バスや電車などの公共交通を利用していただけよう「ひらかた交通タウンマップ」作製や「バス！のってスタンプラリー」を実施してきました。

昨年秋、「電車やバスのものがたり」をテーマに創作絵本や紙芝居を一般募集し、前号で受賞作品をエコフォーラムで表彰したことを紹介しました。

その中の素晴らしい作品「つぎとまります えがおさいた」が本になりました。「公共交通の素晴らしさ」を、違う面から知っていただき、子育て世代や子ども達、保育者にも、絵本や紙芝居づくり・読み聞かせを通して、公共交通の優れた面や重要性を学ぶ機会になればと思います。

1000 部発行した本は、子育て関係施設や図書館等でご覧いただけます。公共交通への関心を持っていただき、利用してもらえ、親しみを感じてもらい、かしこい使い方を学んでいただければと願っています。

併せて、この絵本を通してバス、電車といった公共の場で見かける乳幼児を持つ母親に対する周りの大人たちの温かい視線、サポートの大切さといったことも感じてもらえればと思っています。子どもをやさしく育てる社会の一役にも！



事務所受付にも置いてあります。手に取って読めるスペースもあります。気軽にお立ちよりください。



ほんわかしたイラストや登場する人たちのふれあいに温かさを感じます。

ゴーヤのグリーンカーテン、無事終了しました

ひらかた環境ネットワーク会議では今年も5月中旬頃から、温暖化対策の一環としてゴーヤを育て緑のカーテンを作りました。今年のゴーヤの苗は少しひ弱な感じで、ちゃんと成長するか心配でしたが、ぐんぐん伸びてゴーヤの実もたくさん収穫できました！MY ゴーヤオーナーの方、水やりのお世話頂いた方、ありがとうございました。



高いところに実ったゴーヤは収穫も大変です

環境ミニ講座 後期スタート

今年度も環境ミニ講座が6月からスタートし、9月22日に第4回を終え、前期日程を終了しました。

10月から後期講座が始まります。“環境問題”と言えば堅苦しく、とっつきにくく感じるかもしれませんが、身近な楽しいことから始めてみませんか。本講座ではリサイクル手芸やエコクッキングなど、楽しんで環境問題に触れることができます。

※詳しくはチラシをご覧ください。

ごみ減量フェアに出展

毎年11月の第1日曜日には、穂谷川の清掃工場でごみ減量フェアが開催されます。当団体も環境との関わりの中で毎年出展し、広く市民に温暖化対策に取り組むことの大切さと、どんな取り組みをすればいいのかといった情報提供を行っています。堅苦しくならない様、体験・参加型をメインに工夫を凝らし取り組んでいますので是非一度足を運んでみてください。今年は下記の通り実施されます。

記

日 時	11月1日(日) 10:00～15:00	*雨天中止。
場 所	穂谷川清掃工場	
内 容	フリーマーケットやリサイクル品の無料抽選会、パッカー車と記念撮影、収集体験、リサイクル工房による自転車・木工作品・衣類・堆肥の展示販売やおもちゃの修理など。	

昨年は、辻学園栄養専門学校の生徒による食材を使い切る方法や残さず食べる大切さをテーマにした出店や展示がありました。

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回のテーマは、「頻発が予想される洪水被害～対策はあるのか!?～」 「小型家電リサイクル法が始まって2年！回収BOXの利活用は？」です。

◆ 頻発が予想される洪水被害 ー対策はあるのか！？ー

近年多発するゲリラ豪雨や 50 年に 1 度といわれるような豪雨による被害が日本各地で起きています。9 月 10 日未明には、鬼怒川が決壊し甚大な被害をもたらしました。温暖化の影響ともいわれているこれらの気象変化は今後ますます多発することが予想されます。

日本における治水計画は洪水を河川の中に押し込めることを前提に進められてきました。しかし、近年にみられる様な、100 年に 1 度、50 年に 1 度の豪雨を想定した洪水対策を講じようとすれば、ほとんどの川で、計画対象の洪水の規模が大きすぎて、何百年たっても完成しません。2002 年夏、ドイツ東部を 500 年に 1 度の規模と言われる大洪水が襲いました。それまで、ドイツにおける治水は、日本と同様“洪水を河川の中に押し込める”というものでしたが“川はあふれる”と言う前提に立ち「洪水予防法」を 2002 年秋に策定し、2005 年に施行しました。それにより、増水した川の水が流れ込む場所を確保する遊水地計画や、ネットに住所を入力すれば、誰でもその場所がどれぐらいの水位で水没するかがわかるような情報開示など様々な施策がとられてきました。

私たちはダムや堤防を整備するとそれで安心と思ってしまうますが、それでは安心できないということを知り始めました。これからは、地域ごとに川と人との関係を再構築する必要があり、政府も政策の見直しが迫られるのではないのでしょうか。

◆ 小型家電リサイクル法が始まって 2 年！ 回収 BOX の利活用は？

小型家電の処分、どうしていますか？小型家電リサイクル法が始まって 2 年半が経ちます。環境省によると 1 年間に使用済みになる小型家電は 65 万トン分で、そこに含まれる有用な金属は 28 万トン分、およそ 844 億円分になるといいます。再利用によって金属の輸入が減ると共に、回収分の埋め立て場所が浮いてくるといった、国にとっても自治体にとっても大きなメリットがあります。しかし、環境省のアンケートによると、施行されて 1 年目の昨年 4 月時点で、全国 1741 自治体のうち回収しているは 4 割余りの 754 自治体にとどまっているとのことです。枚方市では 2014 年から実施されているのですが、回収 BOX の設置場所や出す場合の注意点はご存知でしょうか…。粗大ごみや、あらゴミに出す前にこうした小型家電回収 BOX を利用してはどうでしょう。（回収 BOX 設置場所は枚方市の HP で確認できます。）

地域の環境人 登場!!



またまたゴミの話ですが…

枚方市は焼却ゴミ半減計画を打ち出しているのを知っていますか？もう 10 年にもなるとか、分別回収も進んでいるのに横ばい状態だと聞きました。

きちんとゴミを出しているつもりが、いろんな集まりに参加してゴミを出すときに「これって生ごみ？プラ？」と思わず聞くことや、聞かれることがありますか。そんな時の答えは、みんな曖昧。いつも普通に出しているゴミだけど正しい出し方って考えたことがありますか？プラについている紙のラベルやシールついたままで出しているの、マヨネーズなど中身が残っているときは？プラマークがついていないけどなど、限りなく疑問や迷いがわいてきます。環境問題で一番にできることだし、もっと知らなくてとはと反省。余談ですが、市のホームページからたどっていくと、ごみ減量配信マガジンがあることを知り、クリック！参考になることあるかな。

枚方市 B. S

我が家のゴーヤ

暑い夏も終わりました。今年も暑さ対策のひとつでゴーヤを植えました。太陽のきつい日差しに負けじと、ぐんぐん伸び立派なグリーンカーテンになって通り過ぎる人達にも涼しさを届けたかなと思います。また、副産物のゴーヤの実も美味しくいただきました。

が、効果とともに疑問が生まれました。グリーンカーテンで涼しく過ごせたものの、光を遮ることで部屋が暗くなり、電気をつけることもありました。冷房はつけなかったけれど電気をつけることに…。

聞くと、冷房と電気では冷房の方が消費電力は高いそう。よかったあ。

枚方市 G・C

まち中のホットなエコ情報を紹介するコーナーです。エコな取り組みや頑張っている人、環境への関わりや思い、日常の中での関心事などをお寄せください。

*200～400 字程度 ※原稿は紙面の都合で加工させていただきます。場合もありますのでご了承下さい。

*写真、イラストもどうぞ

*掲載の方には記念品を進呈

ひとこと

今年は、秋の訪れが早く、久しぶりにガーデニングを楽しんでいます。環境情報コーナーもクールスポットの役割を終え、ゴーヤも終わり、落ち着きを取り戻しました。

一方、外に出たイベント活動は、活発に行われています。イベントの醍醐味は、やはり、参加者との交流です。「こんなことやってるのね～」「知ってよかった」と言ってくれる方もおられ、活動を続けるためのモチベーションも高まります。是非、みなさん、少しでも飛び入りでもいいので、参加してくださいね。

m. m

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第47号

平成 27 年 10 月 1 日発行（年 4 回発行）

発行：（特活）ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町 5 番 1 号

サブリ村野内（旧村野小学校）

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

E メール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者：伊丹 均 編集責任者：丸井 晶子

※この冊子は、再生コート紙を使用しております。